

平成 21 年 12 月度情報発信 No.33

お世話になっております。皆様方ご健勝のこととお喜び申し上げます。平成 21 年 9 月中旬～12 月中旬にわたる情報発信をお届け致します。

この期間は、対外的な活動が多く、あっという間に過ぎ去り、本年も残りわずかになりました。本当に慌ただしいと感じます。

期間中、大阪市立大学でのフル 5 日間にわたる環境材料学の集中講義、大阪府立大学で行われた第 5 6 回材料と環境討論会に実行委員として参画、JICA での中南米の中堅技術者への講義、中国出張、兵庫県立工業技術センターで行われた第 7 回腐食防食セミナー 公開相談会 Q & A に講師として出席しました。

新型インフルエンザが勢いを増しつつあったのですが、直近ではその勢いが下がってきたとのことで一安心です。11 月中旬に中国に行った折は、大変寒く真冬の気温でした。青島での投宿の折は、チェックインの際に体温を測られ、インフルエンザの検査をさせられました。

この忙しい中で、一般向けの腐食防食参考書「図解入門 さびの基礎知識」は、弊社スーパーバイザー、広島大学名誉教授の松村昌信先生と共同執筆中ですが、全 87 項目中、あと 7 項目のみを残すところまでこぎつけました。正月を挟んで新年早々脱稿するつもりでいます。

なお、当方の忙しさにかまけて、クライアント会社殿へのコンサルタント対応が十分とはいえない会社もございます。そのような会社殿には、この事業年度中に是非ご訪問を果たし、質疑応答、あるいは腐食防食関連の講義を実施したく考えています。どうぞよろしく願いいたします。クライアント各社におかれては、どうぞいいお年をお迎え下さい。

特記事項

弊社技術顧問に二人の専門家を招請しました。お二人のご専門を紹介いたします。

* 原信義氏：東北大学大学院工学研究科教授、工学博士、腐食防食専門士

主な専門分野は、(1)腐食現象解析(高温高圧水腐食,超臨界水腐食,有機溶媒腐食,大気相プラズマ腐食など)、および(2)腐食計測(各種腐食試験,電気化学分極測定,電気化学インピーダンス分光測定など)などです。

* 梅村文夫氏：平成 21 年 9 月、東京電力株式会社技術開発研究所材料技術センターを定年退職。工学博士、腐食防食専門士

主な専門分野は、電力、エネルギー、環境、プラント、空調、蓄熱・熱供給,新エネルギーにおける(1)腐食損傷事例の原因解明と対策の立案、および(2)防食・防錆を考慮した保守・メンテナンス技術の指導です。



写真 名大理学部 昭和 37 年卒の同期でノーベル賞受賞者の益川君と久しぶりに歓談 (10/17)。 中央が益川先生、左側が伊藤先生、右端が小生

活動報告

特記事項

大阪市立大学 工学部知的材料工学科での「環境材料学」集中講義

長野、山下、内田著「環境材料学」を教科書として講義 (9/16-18, 24-25)

第 5 6 回材料と環境討論会に実行委員、於大阪府立大学 (9/28-30)

名古屋大学創立 70 周年記念 (総基 138 周年) に出席し、理学部の同窓でノーベル賞受賞者の益川君と久しぶりに歓談した (写真) (10/17)

JICA (日本国際協力協会) のプロセス工業におけるクリーナープロダクションコースで一日腐食防食の講義。アルゼンチン、ポリビア、コロンビア、エクアドルから中堅技術者が参加し受講 (11/2) (写真)

中国出張

兵庫県立工業技術センターで行われた第 7 回腐食防食セミナー 公開相談会 Q & A (12/1)。

兵庫県立工業技術センター、腐食防食協会腐食センター、腐食防食協会関西支部などの主催で 100 名出席。24 題の質問のうち、小生より下記の 3 問題について回答。

1) 鋭敏化 SUS304 の特異腐食

- 2) オーステナイト系ステンレス鋼の加工硬化と耐食性
- 3) ステンレス鋼 TYPE347H の鋭敏化と耐食性

文献

1. 渡辺正満ら：銅の大気腐食における塩基性硫酸銅及び塩化物の生成，材料と環境，58，No.9，p.328(2009)。
2. 平出ら：高温におけるCr及びCr酸化物とNaClとの反応，材料と環境，58，No.10，p.348(2009)。
3. 塩谷ら：希薄Cl-環境中におけるステンレス鋼のすき間腐食発生時間に及ぼす電位と温度の影響，材料と環境，58，No.11，p.378(2009)。
4. B.T.Luら：原子力発電蒸気発生器の塩基性すき間溶液における690合金の鉛誘起腐食，Corrosion，65，No.9，p.601(2009)。
5. N. Sridharら：二相ステンレス鋼 S32205 の再不働態化電位に及ぼす時効の影響，Corrosion，65，No.10，p.650(2009)。
6. D. Thierryら：加速サイクルテストで生じた溶融亜鉛メッキの腐食生成物，Corrosion，65，No.11，p.718(2009)。
7. S.C.Baliら：沸騰水型原子炉環境を再現した条件下でのオーステナイト系ステンレス鋼の粒界応力腐食割れに及ぼす低温鋭敏化の影響，Corrosion，65，No.11，p.726(2009)。
8. 露点腐食，Materials Performance,48，No.9，p.12(2009)。
9. Rober M. Parkら：照合電極の測定値の解釈，Materials Performance，48，No.9，p.32(2009)。
10. アノード（負極）は電位が貴或いは卑の何れか，Materials Performance，48，No.9，p.38(2009)。
11. S. Poongothaら：塩酸環境中における軟鋼の腐食を油で抑制，Materials Performance，48，No.9，p.52(2009)。
12. Rameshi Singh：鋳鉄の金属学，Materials Performance，48，No.9，p.58(2009)。
13. Michael Schoら：工業用蒸気タービンにおけるエロージョン・コロージョン，Materials Performance，48，No.9，p.62(2009)。
14. 有機塩素による腐食，Materials Performance，48，No.10，p.8(2009)。
15. N. Frankhuizeら：NaCl，塩化物，溶解性不純物，Materials Performance,48，No.11，p.36(2009)。

以上